

AKIYOSHI

迫 昭嘉 ピアノ・リサイタル

SAKO

PIANO RECITAL

2013年 10/3(木) 19:00

 浜離宮朝日ホール

Thursday, October 3, 2013 at 7p.m.
Hamarikyū Asahi Hall

全席指定 一般¥5,000 学生¥2,000

主催: KAJIMOTO/朝日新聞社

J.S.バッハ:

イタリア協奏曲 へ長調 BWV971

J.S.Bach: Italienisches Konzert F-dur BWV 971

ベートーヴェン:

ピアノ・ソナタ第23番 へ短調 作品57「熱情」

L.v.Beethoven: Sonate für Klavier Nr. 23 f-Moll "Appassionata" Op. 57

リスト:

巡礼の年第1年「スイス」より

第6曲「オーベルマンの谷」/第8曲「郷愁」

F.Liszt: Années de pèlerinage, Première année Suisse S. 160/R. 10

No. 6. Vallée d'Obermann / No. 8. Le mal du pays

グラナドス:

ピアノ組曲「ゴイエスカス」より

第3曲「ともし火のファンダンゴ」/第5曲「愛と死」/第7曲「わら人形」

E.Granados: Goyescas

No. 3 El fandango del candil / No. 5 El amor y la muerte / No. 7 El pelele



©武藤章

チケットのお申込み

カジモト・イープラス 0570-06-9960

※音声自動応答で承りますが、オペレーター(10:00~18:00)もご選択いただけます。
ホームページからお申込みいただけます(パソコンもケータイも同じアドレス)。

 <http://kajimotoeplus.com/>

0570で始まるナビダイヤル番号は、PHS、IP電話など一部の回線からは接続されない
場合がございます。NTT加入電話、公衆電話などをご利用願います。

e+(イープラス) <http://eplus.jp/>
チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード: 203-928)
朝日ホールチケットセンター 03-3267-9990

twitter @kajimoto_News

 <http://www.facebook.com/kajimotomusic>

便利なケータイサイトもぜひご利用ください。

iモード・EZweb・Yahoo!ケータイ 対応

チケットもご購入いただけます。

カジモト・イープラス



KAJIMOTO

充実の今を映し出す音楽家、迫 昭嘉

デビューから30数年。鍵盤芸術のみならず、たくさんの楽の音を奏で、聴き手、アーティストと交歓してきた音楽家、迫昭嘉が、充実の今を映し出す。

室内楽を交えたステージと後進の指導の双方で存在感を際立たせている迫さんだが、東京での自主サイタルはほんとうに久しぶり。逃げも隠れも出来ない「イタリア協奏曲」に「熱情」。昨今脚光を浴びている「巡礼の年」。プログラムの締めくくり、人生の喜怒哀楽を描いたグラナドスの逸品「ゴイエスカス」を弾く。

ドイツ音楽の精髓、時空を超えた詩情、物語性、それに色彩の移ろいをキーワードにしたかのような、美しくも劇的なプログラムだ。絵画的、それに舞いの美学も鍵を握る。

ミュンヘンで名伯楽クラウス・シルデの教えを受け、ソナタ全曲のツィクルス演奏並びに録音を成し得た迫さんにとって、気宇壮大なベートーヴェンはマスト・アイテムである。劇的推進性ばかりでなく、楽想や和声の変幻に寄り添う練達の名手がここにいる。古典の様式美、躍動感いずれもお任せあれの達人、とは褒め言葉が抽象的過ぎるだろうか。本質を究める人だけに、開演を彩る「イタリア協奏曲」への期待も大きい。へ短調の「熱情」を導くへ長調のバッハに遅れなきよう。

旅や思索を愛でたりスト、歌劇や絵画と不可分のグラナドス作品は、まさに楽の音を慈しむロマンティスト迫昭嘉さんならではの選曲である。

ソリスト、室内楽の担い手ばかりでなく、ブラームスの交響曲やオペラに惚れ込んだ指揮者、母校のプロフェッサーと、いくつもの顔をもつ我らが迫さん。さあ出番である。

音楽家、迫昭嘉のピアノ・リサイタルが近づいてきた。

奥田 佳道 (音楽評論家)

©武藤章

AKIYOSHI SAKO PIANO RECITAL

迫 昭嘉 (ピアノ) Akiyoshi Sako, Piano

1980年第35回ジュネーヴ国際コンクール最高位(1位なしの2位)、1983年スペインの第27回ハエン国際コンクール第1位並びにスペイン音楽賞を受賞。気品ある音色と透明度の高いリリズムで内外の注目を集め、以来日本国内はもとより、ヨーロッパ、カナダ、アジアで活躍を続けている。1984年から98年にはイタリア、ミラノに在住、イタリア国内をはじめ、ドイツ、スイス、スペイン、チェコ・スロヴァキアなどヨーロッパ各地でコンサートを行い、迫の演奏の最大の魅力である明快な音のつくりと歯切れのよいリズム感、自然に息づく音楽性が高く評価されている。

1980年 東京藝術大学大学院でクロイツァー賞を受賞。東京国際音楽コンクール室内楽部門第1位。東京藝術大学大学院修了後はドイツ政府給費留学生としてミュンヘン国立音楽大学マイスタークラスでクラウス・シルデ氏に師事。

2001年には、デビュー20周年を記念して、1月～12月に神戸新聞松方ホールで、さらに同年11月～2003年9月にかけて、東京・第一生命ホールでも『ベートーヴェン：ピアノソナタ全曲チクルス』(全8回)を行い、新聞・雑誌等各方面で話題と反響を呼んだ。また神戸でのチクルスは『迫昭嘉：ベートーヴェン：ピアノソナタ全集』としてリリース。全てのディスクがレコード芸術誌特選盤・推薦盤に輝くなど極めて高い称賛を得た。

ズデニェク・コシュラー、ウラディミール・ヴァーレク、レオシュ・スワロフスキーなど一流の指揮者、ブラハ交響楽団、スロヴァキア・フィル、香港フィル、NHK交響楽団をはじめとする国内の主要なオーケストラとの共演のほか、室内楽奏者としても、内外の一線で活躍する演奏家たちと数多く共演し、いずれも高い評価と信頼を得ている。チェリスト上村 昇氏とのデュオでは1998年度 ABC国際音楽賞を受賞している。

1999年九州交響楽団で指揮者としてデビュー以来、東京都交響楽団、新日本フィル、東京シティ・フィル、京都市交響楽団、札幌交響楽団、日本センチュリー交響楽団、名古屋フィル、神奈川フィル、関西フィル、群馬交響楽団などの指揮台にも登場、緻密な音楽作りが話題となっている。

最近では、長年のパートナーである景山誠治、豊嶋泰嗣、上村昇との室内楽で、ブラームス、ドヴォルザークの魅力を存分に伝えた。また彼の原点ともいえる、スペイン・イタリア作品を主としたラテン系プログラムでのリサイタルは鮮烈な印象を与え、今後ますます充実した活動が期待されている。

現在、東京藝術大学教授、東京音楽大学非常勤講師、洗足学園音楽大学客員教授として後進の指導にも当たっている。